



国営沖縄記念公園 首里城地区

- ・設計年・施工年 1984～1992年(一部開園)
- ・面積:4.0ha
- ・事業主:建設省沖縄総合事務局

首里城は琉球が統一された15世紀初頭から1872年の琉球処分に至るまでの450年間、国王の居城として栄え、ここを中心に琉球の歴史や独自の文化が開花してきた。城郭は東西400m南北250mにわたって琉球石灰岩の石積が築かれ、城内には戦前国宝に指定された正殿、歓会門、瑞泉門、白銀門をはじめ多くの建造物が立ち並んでいた。しかし、このようなわが国を代表する貴重な文化財は、第二次世界大戦における沖縄戦によってその大半が灰に帰した。

1984年、われわれは首里城と一体となって歴史的風致地区を形成している地域、約18haについて「首里城公園」基本計画をまとめ、合わせて古都首里の歴史的環境保全方針を首里杜構想として提案した。その後、首里城跡約4haの「国営沖縄記念公園首里城地区」について基本設計、実施設計に取り組んできた。

